

デジタルソリューションワークショップ概要

これからのMICEにおいて必要とされるデジタルソリューションを知り、ニーズに対応した自社サービスの効果的な提案方法を学びます。

講師略歴



株式会社ディーフィッツ
代表取締役
齋藤大一氏

現活動

- ・一般社団法人 日本イベント業務管理士協会 理事(日本イベント業務管理士1級)
- ・MPI会員

前活動

- ・日本コンgresコンベンションビューロー人材育成委員
- ・JAPIC複合観光事業研究会 委員 WGメンバー
- ・JCMA初代事務局渉外担当



国立研究開発法人
量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所
先進核医学基盤研究部
グループリーダー 山谷泰賀氏

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(旧 放射線医学総合研究所)、通称QSTの上席研究員として、強力ながん診断法として知られるPETの次世代機器の研究開発を推進。約20名規模の研究グループのリーダー。日本政府観光局のMICE誘致アンバサダーとして、PET物理学の世界最大学会であるIEEE Nuclear Science Symposium and Medical Imaging Conference(2000人規模)の日本誘致(パシフィコ横浜)に成功。COVID-19の影響により完全バーチャル開催となったが、現地開催でのプランニングから始まり、ハイブリッド開催の可能性検討を経てバーチャル開催に至ったため、主催側として幅広い形態での開催計画に関与した経験を持つ。

プログラム内容

第1回(10/28)

横浜で将来国際会議を開催予定である主催者様より、MICEにおけるデジタルソリューションの必要性についてお話いただきます。

①	<p>講演:「IEEE 原子核科学シンポジウムと医用イメージングに関する国際会議」の主催者から見たMICEにおけるデジタルコンテンツのニーズ</p> <p>国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 先進核医学基盤研究部 グループリーダー 山谷 泰賀氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際会議におけるオンラインプラットフォームについて ・今後必要とするデジタルソリューションについて ・参加者からの質疑応答
②	<p>ご参加者様のネットワーキングタイム</p>
③	<p>講師による事業者よりの目線で主催者ニーズを解説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催者ニーズに対するアプローチ方法
④	<p>講師による様々な分野の事例や動向紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議運営型ツールのみならず、エンターテインメント領域などの可能性

第2回(11/10)

MICE業界に参入している会社様も、まだMICE業界に参入していない会社様にとっても、自社デジタルソリューションをどのようにMICE主催者に提案していければ、主催者にささるかをワークショップ形式で学びます。

①	参加者からの発表 ・第一回目の講義を受けての自社デジタルソリューションの提案
②	グループディスカッション
③	講師からのフィードバック

第3回(12/8)

MICE SHOWCASEでの提案を見据えた各社によるプレゼンテーション、講師からの総評を行います。

①	各社による最終プレゼンテーション
②	総評

主催・お問い合わせ先

公財)横浜観光コンベンション・ビューロー MICE振興課

TEL:045-221-2111 EMAIL:ymbn@ycvb.or.jp